

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●有馬記念はクロノジェネシスが勝利

12月27日(日)に行われた有馬記念(G I)では、ファン投票第1位のクロノジェネシス(牝4歳/栗東・斉藤崇史厩舎)が1番人気に応じて優勝しました。ファン投票第1位の馬は通算16勝目。また同馬は昨年の宝塚記念(G I)も制しており、宝塚記念・有馬記念の同一年制覇は史上11頭目のこととなります。

●ホープフルSはダノンザキッドが勝利

12月26日(土)に行われたホープフルS(G I)では、ダノンザキッド(牡2歳/栗東・安田隆行厩舎)が優勝、デビュー3連勝をG I制覇で飾りました。

●中山大障害はメイショウダッサイが勝利

12月26日(土)に行われた中山大障害(J・G I)ではメイショウダッサイ(牡7歳/栗東・飯田祐史厩舎)が優勝、J・G I初制覇を果たしました。飯田調教師および騎乗した森一馬騎手にとっても初のJ・G I制覇となります。

●伊坂重信調教師がJRA初勝利をあげる

12月26日(土)の5回中山7日・第7レースではココロノイコロが1着となり、同馬を管理する伊坂重信調教師(美浦)は、初出走から延べ49頭目でJRA初勝利をあげました。

●吉井章騎手がJRA初勝利をあげる

12月26日(土)の6回阪神7日・第7レースではスカーフェイスが1着となり、同馬に騎乗した吉井章騎手(大井・松浦裕之厩舎)は、JRA初勝利(4戦目)をあげました。

●2020ヤングジョッキーズシリーズは大井の吉井章騎手が優勝

12月26日(土)の6回阪神7日には「2020ヤングジョッキーズシリーズ ファイナルラウンド阪神」の2レースが行われ、第1戦で1着、第2戦で8着だった吉井章騎手(大井)が、12月24日(木)に実施された「ファイナルラウンド園田」と合わせて65ポイントを獲得、総合優勝を果たしました。

●2020年度JRAリーディングが決定

2020年12月27日(日)をもって同年の全日程が終了し、年間204勝をあげたクリストフルメール騎手(栗東・フリー)が4年連続4度目となるJRAリーディングジョッキーに輝きました。また矢作芳人調教師(栗東)が年間53勝をあげ、2014年、2016年に続く3回目のJRAリーディングを獲得しています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●オメガパフュームが史上初の東京大賞典(大井)三連覇を達成

東京大賞典(G I、12月29日、大井、2000^円)は、5番手から差を詰めたオメガパフューム(ミルコ・デムーロ騎手、牡5歳、父スウェプトオーヴァーボード)が、先に抜け出したカジノフォンテン(船橋)をゴール前でクビ差捉えて優勝、単勝1.3倍の圧倒的支持に応えました。3番人気のウェスタールンドが3着、ヒストリーメイカーが4着に入り、テオーケインズは6着、ハナズレジェンドは7着、デルマルーヴルは8着、2番人気のダノンファラオは12着に敗れています。

●2020年地方競馬リーディングは角田輝也調教師、森泰斗騎手

2020年の地方競馬リーディングは、トレーナーが176勝で角田輝也調教師(愛知)、ジョッキーは387勝の森泰斗騎手(船橋)でした。また、地方競馬リーディングサイヤー(総合)は、これで7年連続となるサウスヴィグラスで、産駒の主な勝ち鞍は、サブジュニア(大井)のJBCスプリント(Jpn I)です。

●金の鞍賞(高知)はブラックマンバ【各地の主要2歳重賞】

金の鞍賞(12月26日、高知、1400^円)は、中団から追い上げた2番人気のブラックマンバ(牡、父ダノンレジェンド)が、単勝1.6倍で断然人気のハルノインパクトを直線半ばで差し切り、黒潮ジュニアチャンピオンシップの雪辱を果たしました。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1マリブS～シャーラタンが4馬身半差の快勝

12月26日に米国カリフォルニア州のサンタアニタパーク競馬場で行われたG1マリブS(3歳、ダート1400^米)は、M.スミス騎手を背に2番手でレースを進めたシャーラタン(牡3歳、父スパイタウン、B.バファート厩舎)が4馬身半差で快勝。G1初制覇を果たしました。シャーラタンは、昨年2月のデビュー戦(ダート1200^米)と3月の一般戦(ダート1600^米)をそれぞれ5馬身 $\frac{3}{4}$ 差、10馬身 $\frac{1}{4}$ 差で連勝。続く5月2日のG1アーカンソーダービーでも6馬身差の1位で入線しましたが、禁止薬物の陽性反応が出たため失格。その後、脚部不安で休養に入り、ここは約8か月ぶりのレースでした。

●G1アメリカンオークス～デュオポリーが逃げ切る

上記G1マリブSの1レース前に行われたG1アメリカンオークス(3歳牝、芝2000^米)は、F.ブラ騎手が手綱を取ったデュオポリー(C.ブラウン厩舎)が2馬身差の逃げ切り勝ち。G1初挑戦で初制覇を果たしました。デュオポリーの父であるアニマルキングダムは日本軽種馬協会静内種馬場で供用中です。